

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 奈良 沙菜恵
所属 (School) 大阪府立大学大学院
学年 (Grade) 修士 2 年

留学先 (Name of overseas institution)
Chang Gung 大学 (台湾)
留学期間 (study abroad period)
2017/07/30~2017/08/03

記入日 (Date) 2017/08/07

留学レポート Study Abroad Report

今回の留学は、私にとって初めての海外渡航でした。パスポートをまだ申請していなかった5月頃、学会へ参加登録する際にパスポート番号の記入を求められて困惑していたことは忘れられません。学会の要旨提出を済ませた3月から申請しておけばよかったと思いました。また、登録にはクレジットカードが必要であり、慌ててクレジットカードも申請しました。初めての海外渡航で自分が海外に行くという実感がなかったこともあり、全体的な準備が遅かったと感じています。たとえ実感が伴っていなくても、前もって準備できることはやっておくべきだと痛感しました。

台湾へ渡航する前に、英語でのポスター発表を外国人講師の前で行いアドバイスを頂く機会がありました。最初は、作成した発表原稿を見ながら読み上げるように発表をしました。発表が終わると、講師の方は私から原稿を取り上げ、原稿を見ずに発表をやるように促しました。原稿を覚えていなかったのが時間がかかったり言葉が詰まったりしましたが、最後まで私の発表を聞いてくれて嬉しく思いました。原稿を読み上げていた時とは違い伝えたいことを頭で考えながら話せたと思いい、これこそが大事なことであるということに気づきました。講師の方から、状況に応じて話す内容をアレンジすること、アイコンタクトを取ることをアドバイスとして教えて頂きました。実際に学会の場に立つ前に、外国人の前で英語で発表する練習をすることは大切だと思いました。

学会には様々な国籍の方が参加されていましたが、思っていたよりも日本人の参加者が多かったです。発表は、ポスター発表よりもオーラル発表の方が多く、質疑応答では外国人の方々が積極的に質問している姿に感心しました。Coffee breakの時間にも、雑談を交えながら研究の話を楽しそうにされている様子を見て、私も自分の研究や人の研究をもっと好きになりたいと思いました。



発表者全員が英語で発表されているにも関わらず、なんとなく国籍によって話す英語に異なる特徴が現れているように感じました。日本人の英語はすぐに判別がついたので、やはりネイティブにはかなわないなと感じました。また、インド系の英語は早口で言葉の区切りが分かりにくく全く聞き取れませんでした。自分の研究分野に関連する内容の発表がいくつかあったにも関わらず、英語が聞き取れず内容があまり理解できなかったことが何度かあったので、非常に惜しい思いをしました。英語の耳を鍛えるために、日頃から英語を聞く必要があると痛感しました。

ポスター発表では、外国人だけではなく日本人の方も聞きに来てくださいました。初めての英語表記のポスターと英語での発表で、前日の夜は不安でいっぱいでしたが、いざポスターの前に立つとあまり緊張はしませんでした。発表原稿を丸暗記して挑んだのですが、最終的には大半がアドリブで、その場で思いついた英語を話していました。相手に伝えようとする気持ちが先走るようになっていたことに驚きました。また、外国の方々には日本の方々とは違った観点で質問されることが分かりました。日本人は研究結果の詳細な情報についてよく聞かれるのに対し、外国人は表面的なことや基本的なところについてよく聞かれるということを知りました。頂いた質問に対して英語で答えた時に、メモを取ってくれた時は非常に嬉しく思いました。相手が英語で質問されたときに、自分の言葉で質問内容を復唱しなおすと、双方に誤解が生まれることなく質疑応答ができるということに気づきました。今までに指摘されたことがない質問をたくさんいただき、非常に勉強になったと思います。

学会期間中に、学会会場である Chang Gung 大学の Kuo 教授の研究室を訪問し、様々な粉体プロセスに関する装置や計測機器を紹介していただきました。日本の研究室にあるものと似たものや目新しいものなど様々な機器がありました。小さなスペースの中に多くのものが凝縮されているという印象を受けました。ピーカーやフラスコ、工具が壁にかけられて整理整頓されていることに衝撃を受けるとともに、工具については採用してみたいと思いました。また、企業の研究所のように、器具の上部に器具の名称が掲げられていることにも驚きました。これまでは自分が所属する研究室という狭い世界しか見られていませんでしたが、この研究室見学を通して、海を越えたところでも粉体工学の研究が行われているということを目で見られて、視野が広がったと感じています。

今回の留学を通して、英語に触れる機会の大切さを感じました。中学校から英語を学んでいるにもかかわらずうまく話せないのは、英語を話す機会が少ないためであり、英語をうまく聞き取れないのは、英語を耳にする機会が少ないためであると思いました。5日間の滞在を終え、帰りの空港でキャリーバッグを人に当ててしまったときに、無意識に Oh, sorry. と英語で謝罪していた自分に驚きました。このように、日本語を英語に変換して話すのではなく、伝えたいことをそのまま英語で伝えられるようになりたいと思いました。そのためには、自ら英語に触れる機会を求め積極的に取り入れていく必要があると思いました。今回の留学は私にとって英語・研究・異文化理解などの面で、良い機会であったと思います。

